

## 〈小学校英語〉

# 児童が積極的に英語を話す態度をはぐくむ外国語活動の工夫 — 英語ノート「ランチメニュー作り」における話す場の工夫を通して（第5学年） —

宮古島市立東小学校教諭 保 良 妙 子

## I テーマ設定の理由

地球温暖化，食料問題など地球規模での問題解決が問われる今日，世界の人々が互いに理解し合い共に生きていくためには，コミュニケーション能力の育成が不可欠である。平成18年に発表された中央教育審議会審議のまとめでも「小学校での英語教育を充実させることにより，次世代を担う子どもたちに国際的な視野を持ったコミュニケーション能力を育成する必要」が挙げられ，外国語教育の重要性が述べられている。

文部科学省が公表した平成19年度小学校英語活動実施状況調査によると，全国の97.1%の小学校で英語活動が実施されている。そのような中，新学習指導要領では，小学校の第5学年及び第6学年において外国語活動が新設され，年間35単位時間，週1時間相当が行われることとなった。また，全国に小学校外国語活動の共通した標準的な指導内容を示すという観点から，「英語ノート」（試作版）が作成され，活用方法が研究されている。

本校においては，英語活動が年間10時間程度と英語に触れる機会が少なく，高学年になるにつれ，単純なゲームや歌等の活動に積極的でない態度が見られる。そのため，限られた時数の中で児童が英語に興味関心を持ち，積極的に英語を話す活動ができる題材や指導を工夫していく必要性を感じている。これまでの数少ない活動の中で，特に児童が積極的だったのが，クリスマスカード作りなど課題を設定した活動であった。児童は，このカードを作るという課題を設定した活動により，活動を楽しみ，進んで英語を使って発表することができた。

そこで，5学年英語ノート「ランチメニューを作ろう」の単元に，家庭科で学習した食物栄養素（たんぱく質，炭水化物，ビタミン）を関連させ，「栄養のバランスを考えたランチメニュー作り」という課題を設定した活動を行う。思考を伴う活動にすることで高学年の発達段階に合った活動となり児童が活動を楽しみ，積極的に活動できるのではないかと考えた。また，その活動過程において英語を使ってランチメニューを作成したり，グループで考えたランチメニューを英語で発表するなど児童の発話を引き出す場の工夫をすることで，英語で伝え合うことができた喜びや楽しさを体験し，達成感を味わい，自信がつき，もっと英語で話したいという積極的な態度がはぐくまれるのではないかと考え，本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

英語ノートの単元「ランチメニューを作ろう」において，栄養のバランスを考えたランチメニューを作成し，発表する過程で児童が英語で話す場の工夫を図ることによって，伝え合えた喜びや楽しさを体験し，積極的に英語を話す態度がはぐくまれるであろう。

## II 研究内容

### 1 積極的に英語を話す態度とは

長瀬壮一(2001)は，英語コミュニケーション能力を「英語で自分の意志や情報などを伝えたり，相手の英語を受け止めて理解したりする能力およびその態度」と定義している。英語を話す態度とは，コミュニケーションの中の「英語で自分の意志や情報などを伝える」部分ということになる。伝達には，言語による伝達，非言語（ジェスチャーや具体物を用いて）による伝達もある。このことから本研究では，積極的に英語を話す態度を「慣れ親しんだ表現や語彙を使って自分の思いを進んで伝えようとする態度，ジェスチャーや具体物により自分の思いを伝えようとする態度」と捉える。

### 2 英語ノートについて

(1) 英語ノートとは

英語ノートは，平成23年度から始まる第5学年，第6学年における外国語活動に向けて平成20年4月に文部科学省から試作版が発行され，現在，全国の小学校外国語活動の拠点校に配布され活用

方法が研究されている。英語ノートが作成された目的は、現時点で全国の小学校段階における英語活動の内容等にばらつきがあるため、国として共通教材を提供し、「教育の機会均等の確保」や「中学校との連携」を図ることにある。学習指導要領の内容を踏まえて作成されていることから、英語ノートを活用して授業をしていくことで学習指導要領の内容を実践していくことになる。5学年、6学年の2冊から構成され、平成21年度からは、内容等が改善され各学校の実態に応じて単元を入れ替えたり、選択して使えるように「英語ノート1, 2」として全国の小学校に配布されることとなっている。教師用に指導資料や各レッスンごとに音声、音楽CDや絵カードがついており、他にも文部科学省のホームページからダウンロードしてすぐに授業で使える絵カードやノートの内容をプロジェクターと接続して掲示できるICT教材が作成されている。

## (2) 英語ノートを活用した外国語活動

英語ノートの特徴として、表1のような小学校外国語活動の目標の3つの柱を踏まえた指導計画、タスク活動、コミュニケーション活動、発展的に活用できる内容ということが挙げられる。また、題材は児童の興味・関心、発達段階を踏まえており、活動には歌やゲーム、チャンツ、文化の紹介など児童が意欲をもって取り組みそうな多様な活動が組まれている。このような特徴から、英語ノートを活用することによって多様な指導が可能になると考える。

表1 英語ノートの特徴

1. 小学校外国語活動目標の3つの柱「言語や文化の理解」「コミュニケーションの積極性」「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」を踏まえた指導計画
2. 高学年の発達段階に合った課題を設定したタスク活動
3. 児童の身近な言語使用の場面やそこで使われる表現、語彙を用いた実生活に関連したコミュニケーション活動
4. 他教科等との関連などで発展的に活用できる内容

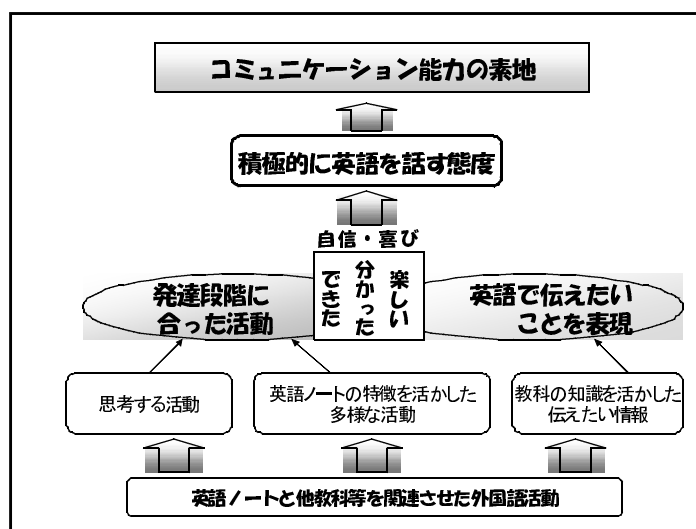
安彦忠彦ら(2008)は、高学年の外国語活動を考える際に「知的好奇心が高まるということは、活動や学習したことに児童が意義を求めること」であり、「心が十分満足する活動を設定することが大切だ」と述べている。「児童が十分に満足する活動」とは、即ち達成感、成就感がある活動だと考える。このことから、授業づくりにおいて児童が達成感や成就感を味わうことができるかという視点は重要なポイントだと考える。そこで、表1のような多様な指導ができる英語ノートの特徴を活かし授業づくりを行っていくことで、児童の心が満足し積極的に活動する学習指導要領で示されている外国語活動が展開できるだろうと考える。また、授業づくりにおいて児童が理解できる語彙や表現を使っていくことも児童が「分かった」という喜びや安心感を感じさせ、活動への意欲に繋がるため、大切なことだと考える。授業を展開していくとき、英語ノートに示されている語彙や単元の中で学習する表現だけでは、内容を理解したり思いを伝えるのに不十分な場合もあると予想される。できるだけ英語を使い、表現や語彙の意味、活動内容の理解を図るために、絵や写真などの視覚的效果を多く用い、目で見て意味が分かるようにする工夫が必要である。そこで、英語ノートについてすぐに使用できる絵カードやダウンロードして利用できる掲示用絵カード、ICTを活用していくことで準備や負担も軽減され、効果的な学習ができると考える。また、授業以外で日常的に英語の音声を聞かせたい場合にもCDを利用すれば、すぐに発音などの練習もすることができる。英語ノートは教科書ではないことからその内容を部分的に活用したり、発展的に加えて活用していくこともできる。このことから、これまでの英語活動の学習状況や児童の興味関心に合わせ発展的にしたり、学校で実施してきた活動案に英語ノートの内容を関連させて行ったりと児童の実態に合った効果的な活動が展開できると考える。

平成23年度からの第5学年、第6学年小学校外国語活動完全実施に伴い、今後、英語ノートを活用しての授業が行われていくと考えられる。本研究では、この英語ノートの単元である「ランチメニューを作ろう」において教科と関連させた発展的な活用方法を工夫し、高学年児童が外国語活動を楽しみ、積極的に話す態度をはぐくんでいきたいと考えた。

## 3 英語ノート「ランチメニューを作ろう」と教科を関連させた外国語活動

他教科と外国語活動の関連について新学習指導要領では、「児童の興味関心にあったものとし、他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること」、学習指導要領の解説では、このことが「児童の知的好奇心を更に刺激することにもなる」と示されている。また、藤田保(2008)は、「合科的な活動は他教科へのさらなる動機づけとなり得る。しかし、そればかりではなく、コミュニケーション活動を通して、既習事項を発表などに結びつけることは、

新学習指導要領で求められている『言語力』の獲得にもつながる。」と述べている。これらのことから、他教科と外国語活動を関連させることにより、他教科等の既習知識を想起し活用していくことで思考する活動となり、児童の知的好奇心が刺激されより積極的に活動に取り組むことができると考えられる。英語ノートの達成感や成就感を味わわせる課題を設定した活動と他教科等と関連させた外国語活動の利点を活かすことにより、児童にとって魅力的な活動になると考える。また、教科等の既習事項を



タスク活動で活用していくことによって他の人に伝えたいと思える情報ができる。例えば、本研究で行った栄養素を活用したランチメニューなどである。好きな食べ物を組み合わせてのメニュー作りだけでも活動はできるが、そこに、家庭科で学習した栄養素の知識を生かして栄養のバランスのとれたメニューを考えることで思考するレベルを上げた活動になり、課題を解決する面白さが生まれる。家庭科で学習した知識を活かして考えて作成したメニューは、他人に伝えたい情報、知りたい情報となっていると考える。それを英語を使って表現していく場、ペアワークや発表活動など英語で話す場の設定を図ることで、自分の思いを英語を使って伝えることができた自信や喜びが積極的に話す態度に繋がり、外国語活動の目標であるコミュニケーションの素地づくりになると考える(図1)。さらに、自分の考えをどう表現すれば相手にうまく伝わるのかを考えたり、実際にコミュニケーションの中で思いを伝える体験させたりしていくことにより、分かりやすく相手に伝える技能をはぐくむ機会ともなる。このことから、英語ノートと教科等を関連させた知的要素を含む外国語活動は高学年児童の発達段階に合った活動であり積極的に活動でき、英語を話す態度をはぐくむのに有効であると考えられる。

英語ノートは、「ランチメニューを作ろう」の単元の他にも単元で扱われている題材によっては教科の内容と関連させ発展的な活動として展開できる単元もある。その一つの例として、英語ノート5学年の単元「Lesson7クイズ大会をしよう」と5学年の国語の単元「漢字の成り立ち」<sup>ひとて</sup>との関連が考えられる。国語の時間に四つの漢字の成り立ちを学習した後に、英語ノートにある「海星」など生き物の名前を漢字から推測させる活動をする。その時、国語で学習した漢字の成り立ちと関連させることで学習した知識を生かして生き物の名前を推測し、英語では何というのか、漢字の意味を基に推測させていくという活動が可能である。本研究では、5年生の家庭科で学習した栄養素と5学年英語ノート「Lesson9ランチメニューを作ろう」とを関連させ、英語ノートの発展的な活動において英語を話す場の工夫をし、児童の積極的な話す態度をはぐくんでいきたいと考える。

#### 4 授業における積極的に英語を話す態度をはぐくむための話す場の工夫

新学習指導要領では、積極的にコミュニケーションを図るための指導として「外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること」と示している。そこで、吉田博彦ら(2008)の述べている外国語活動において楽しさの体験を実現するための四つの段階(表2)を英語ノート「ランチメニューを作ろう」の授業づくりに取り入れ、各段階で児童の発話を引き出す場づくりをしていくことで積極的に話す態度をはぐくんでいきたいと考えた。

表2「楽しさの体験」を実現するための段階

- ①安心して臨める場所の確保
- ②実際に体験する
- ③体験を楽しむ
- ④役割を果たす

児童が積極的に話すためには、第一段階として、児童が安心して英語を話せる場づくりをすることである。そのために、褒め言葉を多く使い児童がチャレンジした行為を褒め、間違っても大丈夫だという雰囲気作りをする。そのことで、児童は安心して話すことができる。また、ゲームやペアワークなどの多様な活動方法で語彙や表現の十分な練習時間を確保することにより、話す自信が付き、児童の積極的な発話を引き出せると考える。

第二段階として、学習した語彙や表現を使いたいと思える場の設定をすることである。5学年は繰り返しや思考を伴わない単純な活動では満足しない発達段階にある。そこで、習った語彙や表現を使う実生活の場面、例えば、本活動では、レストランでの料理注文場面を設定し、“What would you like? I'd like ～.”という表現をペアワークで行い、お店の人と客の役になり実際に会話を体験する。このような実生活と似た状況を設定することで、そのときの気持ちや表現に込められた意味も体験的に理解し、より表現を使いやすくなると考える。また、グループで一つの作品を作りあげるなど仲間と協力し、伝えたい情報を作ることによって話したい思いが高まり、積極的に話すことができるのではないかと考える。

第三段階として、児童が楽しんで取り組める活動を取り入れることである。そのためには、児童の興味関心を知っておく必要がある。例えば、本研究では事前のアンケートで児童の食べ物の好き嫌いを調査しそれをクイズとして活用することで興味を持って取り組める活動にした。また、同じ語彙や表現でもゲームの方法や会話する場を多様にし、友だちと関わりながら違う状況で何度も発話できるような活動を仕組んでいく。そのことで、楽しみながら語彙や表現の定着を図ることができ、それが自信となり、積極的に話す態度へと繋がっていくと考える。

第四段階として、児童に役割を持たせることである。活動では、一人一人にできるだけ多く発話する機会を与えたい。そのために、ペアワークや発表する場面を設け、必然的に英語を使用する場面を作る。発表の場面では緊張や恥ずかしさから英語で話すことが消極的になると考えられる。そこで、グループで友だちと協力して発表させることにより児童が安心し、英語での発表もしやすくなるのではないかと考える。自分の役割を果たすことで達成感を味わい、英語で発表ができたことで満足感や自信が付き、積極的に話す態度がはぐくまれるだろうと考える(図2)。

以上のことから、この四つの段階を授業づくりに取り入れ、各段階において話す場の工夫をすることは、児童が外国語活動の中で楽しさを体験し、積極的に話す態度をはぐくむために有効であると考ええる。

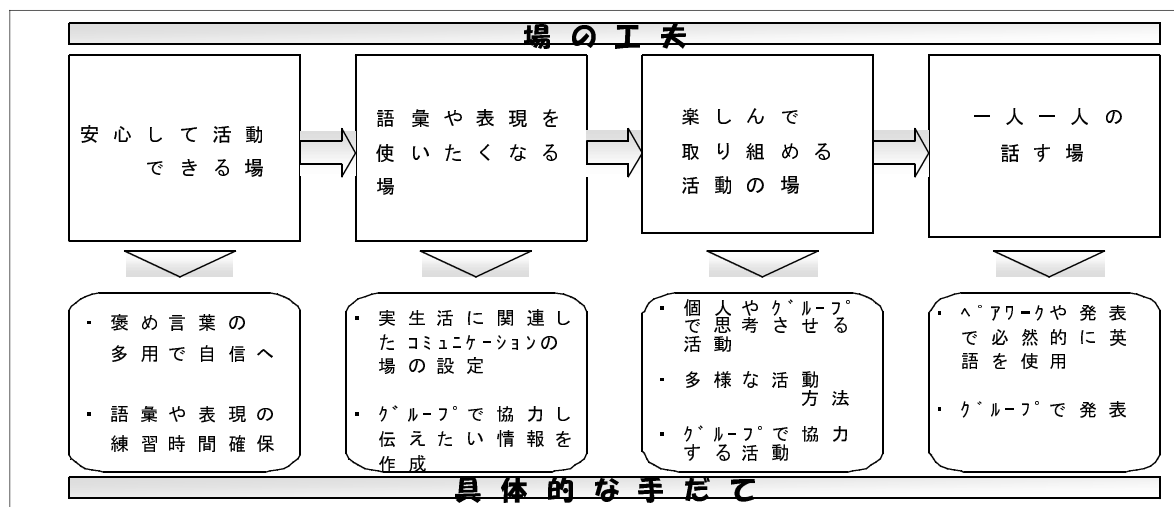


図2 授業における積極的に英語を話すための場の工夫と具体的な手だて

### Ⅲ 指導の実際

#### 1 単元名 Let's make lunch「ランチ・メニューを作ろう」

#### 2 単元の目標

- (1) 慣れ親しんだ語彙や表現を使って、自分の思いを積極的に伝えようとすることができる。
- (2) バランスの良いランチメニューを作り、英語で発表したり、質問に応答したりすることができる。
- (3) 日本と外国の食について相違点や類似点に気づくことができる。

#### 3 単元の評価規準

コミュニケーションへの関・意・態	表現の能力	言語・文化への理解
①慣れ親しんだ語彙や表現を使って自分の思いを表現しようとする。 ②ジェスチャーや具体物を使って自分の思いを何とか伝えようとする。	①食べ物や料理、栄養素の語彙が分かり、聞いたり話したりすることができる。 ②学習した語彙や表現を状況に応じて使うことができる。	①日本（沖縄）や外国の料理について違いや共通点に気づくことができる。

#### 4 指導と評価の計画（6時間）

時間	目 標	活 動 内 容	評価規準			評価方法
			関	表	理	
1	○英語活動のルールが分かる。 ○英語で料理名が分かる。 ○料理の名前を覚えることができる。	①アイスブレイキングゲームで楽しい雰囲気作り。 ②料理の名前を知りかたゲームをする。	①			行動観察 ふりかえりシート
2	○日本と外国の食べ物について違いや共通点を見つ けることができる。 ○料理の名前を覚えることができる。	①どこの国の料理か当てるクイズをする。 ②アメリカの料理についてA L Tから話を 聞く。 ③料理の名前を覚えるゲーム。		①	①	行動観察 ふりかえりシート
3	○栄養素の語彙が分かり料理を3つの働きに分類で きる。	①栄養素の語彙と色、各栄養素の料理を 覚える。 ②料理を栄養素に分類するゲーム。	①	①		行動観察 ふりかえりシート
4	○レストランの場面で使われる表現を使ってバラン スの良いランチメニューを作ることができる。	①レストランの設定で店員と客の役になり、 ペアで習った表現を使いながらバ ランスの良いランチメニューを作成す る。	①	②		行動観察 ふりかえりシート
5	○グループでスペシャルランチを作り、発表の練習 をすることができる。	①グループでバランスの良いランチを作 る。 ②発表の内容を考え、練習する。	①	②		行動観察 ふりかえりシート
6 本 時	○グループで作成したスペシャルランチを発表し、 自分の思いを伝えることができる。 ○A L Tの質問に答えることができる。	①グループでスペシャルランチの発表を する。 ②A L Tの質問に答えたり No.1 ランチ を決めたりする。	②	②		行動観察 ふりかえりシート

#### 5 本時の学習指導（6／6）

(1) 本時単元名 「ランチメニューを発表しよう」

(2) 本時の目標

- ・グループで作ったスペシャルランチを既習の表現を使って発表し、自分の思いを伝えることができる。
- ・A L Tの質問に答えたり、友だちの発表を聞いてコメントすることができる。

(3) 授業の仮説

グループでスペシャルランチを発表する場において、既習の表現を使う場の設定をすることにより、積極的に思いを伝えようとすることができ、英語で伝え合えた喜びや楽しさを味わい、積極的に話す態度がはぐくまれるであろう。

(4) 本時の評価指標

本時の評価は、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「表現の能力」の2観点で行った。判断の基準として、A「十分満足できる」B「概ね満足できる」C「支援・手だてが必要」とする。

学習活動	評価規準	判断基準			評価 資料
	評価の観点	A十分満足できる	B概ね満足できる	C支援・手だて	
①スペシャルランチの発表。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度②	・既習の語彙や表現ジェスチャーなどを積極的に使って自分の思いを伝えようとしている。	・既習の語彙や表現を使い、自分の思いを伝えようとしている。	・グループで協力して語彙や表現を教え合い、発表できるようにする。	行動観察  発表  ふりかえりシート
②A L Tの質問に答えたり、友だちの発表に対してコメントをする。	表現の能力②	・A L Tの質問に学習した語彙や表現を使って積極的に答えている。	・A L Tの質問に学習した語彙や表現を使って答えている。	・A L Tの質問の意味を考えさせ、答えられるようにする。	

(5) 本時の展開

課程	学習活動	教師の支援		【評価】 ○教具
		H R T	A L T	
導 入 3 分	Let's start English Class.(日直) ①あいさつをする (Greeting) T: Good afternoon everybody! How are you? S: I'm fine. (good/happy) (day, month, weather, ...)	・明るい雰囲気を作る。  ・何人かの児童に自分の気分が言える場面を作る。	・あいさつをする。 ・日付、天気を確認。  ・何人かの児童に今日の気分を訪ねる。	○曜日、天気、気分のカード  (気分を表す言葉) Fine, Good, Happy So-So, tired, hungry
	②ほめ言葉を練習する。 Good job, Great, Good idea, Very good, Excellent, Wonderful	・児童と一緒に練習をする。 ・発表後にほめ言葉を使ってコメントするよう勧める。	・ゆっくりと分かるように発音する。	○ほめ言葉カード

前時の復習 5分	<p>③ Favorite food quiz をする。(学級の好きな食べ物ランキングクイズ)</p> <p>④ 発表の基本話型を練習する。</p> <p>S1: Our special lunch is~. S2: The Special menu is rice and miso soup and baked fish and salad. S3: The dessert is orange. S4: The drink is yogurt. S5: このメニューにした訳は〜だからです。 S6: This is our special lunch ! All: Thank you!</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子を見ながら理解を助ける声かけをする。</li> <li>・児童と一緒に練習をする。</li> <li>・練習前に自分の発表する部分に注意して練習するように声かけをする。</li> <li>・練習させることで、自信と安心を持たせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の様子を見ながらヒントを繰り返す。</li> <li>・ゆっくりと分かるように発音する。</li> <li>・ゆっくり、はっきり聞かせるように発音する。</li> <li>・練習が終わったら、褒めて自信を持たせるようにする。</li> </ul>	<p>○ランキングシート(掲示用) 【関・意・態】</p> <p>○発表の基本話形掲示</p>
展開 35分	<p>⑤ Show&amp;Tell の流れを知る。</p> <p>1 発表をする 2 ALT からの質問に答える 3 友だちからコメントをもらう 4 最後にスポンサーランチNo.1を決定</p> <p>⑥ Show &amp; Tell</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表</li> <li>・ALT からの質問(各グループごとに)</li> <li>・友だちからのコメント(既習のほめ言葉を使う)</li> </ul> <p>⑦ No.1ランチを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループでNo.1グループを一つ決めて投票する。</li> </ul> <p>⑧ ALT, HRTから発表についてのコメントをもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で説明する。</li> <li>・No.1ランチを決める視点を示す。</li> <li>・よい発表について確認する。</li> <li>・司会の児童を支援する。</li> <li>・児童が ALT の質問を理解し、答えやすいように支援する。</li> <li>・友だちからのコメントが出やすいように声かけをする。</li> <li>・No.1を決める視点を思い出させ、なぜこのランチがいいのか理由も聞く。</li> <li>・全グループのがんばりをほめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ簡単な語彙で質問をする。</li> <li>・What food is in the red color group?</li> <li>・What food do you like best?</li> <li>・発表に対してほめる。</li> <li>・No.1グループを発表する。</li> <li>・全グループのがんばりをほめる。</li> </ul>	<p>○いい発表の仕方(掲示用)</p> <p>〈いい発表の仕方〉</p> <p>① みんなに聞こえる声ではっきりと ② 動作などをして分かりやすく ③ 聞いている人に伝えたい気持ちを持って</p> <p>【関・意・態】 【表現】</p> <p>○各グループ発表シナリオ・ランチの掲示物</p> <p>○司会のシナリオ</p> <p>Let's start Show&amp;Tell. ( ) group please. ( ) sensei, question please. Any comments please. ( ) group thank you. Everybody finished. Thank you Show&amp;Tell. Good job!</p> <p>○投票用紙</p>
まとめ 2分	<p>⑨ 児童の感想</p> <p>⑩ 終わりのあいさつ</p> <p>Let's finish English class. See you next time.</p> <p>⑪ ふりかえりシートを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想が言えた児童を全員でほめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想が言えた児童を全員でほめる。</li> </ul>	<p>【関・意・態】</p>

## 6 仮説の検証

研究仮説に基づく授業実践を通して、児童の積極的に話す態度がはぐくまれたかどうかを事前事後アンケート、毎時間後のふりかえりシート、教師による行動観察やビデオによる観察等により検証した。

### (1) 児童が積極的に英語を話す態度がはぐくまれたか

#### ① 児童にとって楽しい活動であったか

児童が興味関心を持って積極的に活動することをねらい、栄養素と関連させたランチメニュー作りという思考を伴う活動を題材とした。この活動が児童にとって楽しいものであったか、検証授業前後のアンケートから調査、比較した。「英語の時間は楽しいですか」の問いに、楽しいと答えた児童が検証授業前で34%、検証授業後で87%と増加している(図3)。さら

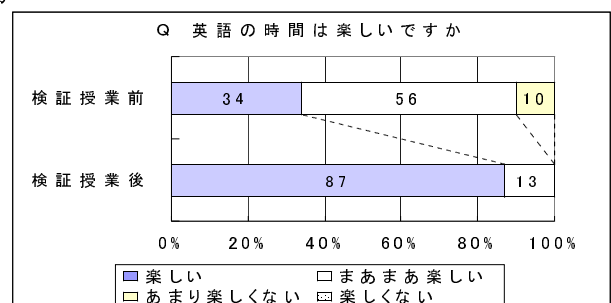


図3 英語の時間は楽しいか

に、どんな活動が楽しかったのか尋ねると、ゲーム、次にランチメニュー作りの順であった(図4)。ランチメニュー作りが楽しかった理由として「みんなで作ったから」「自分で考えて作るから」「栄養素を色で分けるから」ということが挙げられていた。児童が楽しいと感じた要因の一つとして、活動の多様性、程良い活動時間の工夫が挙げられる。本活動では、ゲームにおいて多くの方法を取り入れ料理の語彙を覚えるようにしたり、児童の意欲を持続させるために一つの活動を10分以内で納めるようにした。ゲームは実際にやってみると児童にとって簡単なものもあったので、毎回一つは余分に別のゲームも準備し、児童の様子を見て変更しながら柔軟に行った。このような活動方法の多様性、程良い活動時間の工夫が児童に楽しさを味わわせたと考える。また、ランチメニュー作りにおいては、児童が挙げた楽しかった理由からも分かるように、友達と一緒にする活動、自分で選び創作できる自由性、カラーの料理シールなどの視覚的効果、栄養素のバランスを考えて作る思考を伴う活動など「友だちと一緒に考えて一つのものを作る」というところに児童は楽しさを感じたと考える。本活動では、できるだけ英語での内容理解を図るために、既習の語彙や表現を使い、絵や写真などを多く用いた。この工夫も児童に「英語が分かった」という喜びを与え、楽しさにつながったと考える。これらのことから、栄養素と関連させた外国語活動は、高学年の発達段階にあった題材として児童が楽しみ、積極的に活動できるのに有効であったと考える。

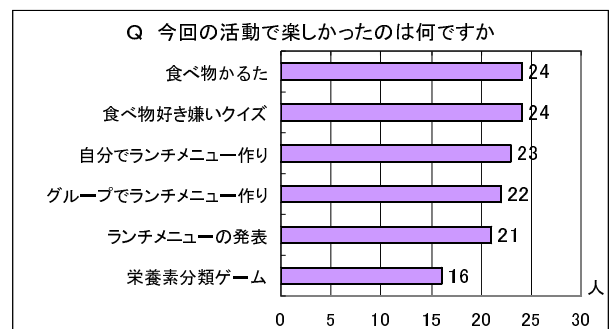


図4 楽しかった活動

## ② 積極的に話すことができたか

児童が本活動を通して積極的に英語を話すことができたかを知るために、学習した英語を授業の中で使おうとしたか検証授業前後のアンケートで調査した。その結果、学習した英語を使おうとしたと肯定的に答えた児童は検証授業前で34%、検証授業後で97%と話すことへの意欲が高まった児童が増加したことが分かる(図5)。また、どの場面で児童自身が話せたと感じたのか、毎時間後のふりかえりシートから見ると、第6時のランチメニューの発表や第4時のレストランの料理注文場面でのペアワークで話すことができたと答えた児童が多かった(図6)。第6時のビデオ観察からは、料理の写真を指で指して発表したり、ALTの質問に友だちと相談をして習った語彙を用いて答えたりと何とか自分の思いを伝えようとする態度が現れていた。

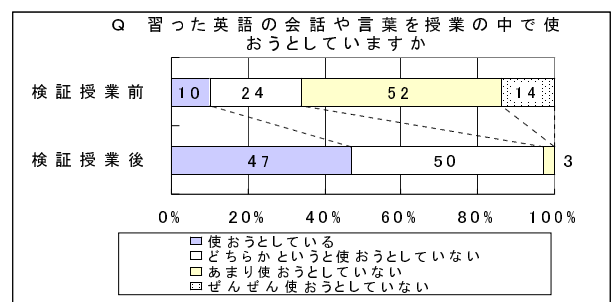


図5 授業の中で英語で話すことができたか

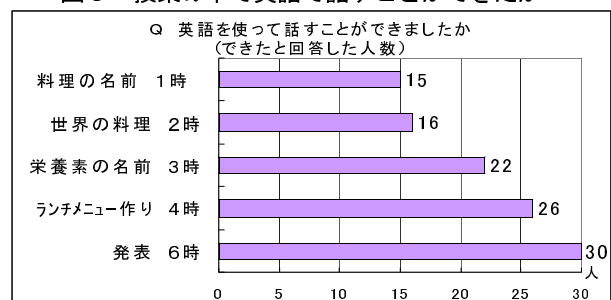


図6 どの場面で話せたと感じたか

これらの場面は、「楽しさを体験するための四つの段階」を取り入れ、話す場面を工夫したところであり、それによって多くの児童が話せたと感じている。第4時と第6時に共通して言えることは、一人一人に必然的に英語を話すという場面を与えたことである。しかし、話す場面を与えるだけでなく、そこにレストランの設定でカラーのシールを用いながらランチメニューを作成することや発表場面でNo. 1 ランチを決めたり、友だちから英語の褒め言葉でコメントをもらうという活動の楽しさを感じさせる要素を盛り込むことで児童は積極的な発話ができたと考えられる。また、事前に料理の名前や発表する表現の練習時間を十分に取って話す自信を持たせ、安心して話せる雰囲気を作ったことも積極的な発話ができたと感じている。発表の場面では、ALTからの質問場面を作ったことにより、コミュニケーションをする場が生まれ、これまで習ったことを活かして何とか伝えようとする積極的に話す態度を引き出すことができたと考えられる。これらのことから、本活動での

「楽しさの体験をするための四つの段階」を取り入れた話す場の工夫は児童の積極的な発話を引き出すのに有効であったと言える。

## (2) 英語を話すことについての意識の変容

検証授業後、児童の話すことへの意識がどのように変化したか、検証授業前後のアンケートにより調査した。「英語で話せるようになりたいですか」の問いに「話せるようになりたい」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童が検証授業前で90%、検証授業後で100%と、学級全員が英語で話せるようになりたいと答えた(図7)。その理由として、検証授業前は「外国に行ってみたい」「外国の人と話してみたい」という理由であったのに対し検証授業後は、「発表のとき使えたから」「楽しかったから」などの理由であった。検証授業前は外国への興味関心が理由の大半を占めていたが、検証授業後には、表3や表4の児童の感想からも分かるように「発表のとき使えたから」「楽しかったから」など、本活動を通して英語で話したいという思いが高まったことが分かる。これは、練習した英語を使ってランチメニューを発表したことにより、児童が英語が使えた達成感や使えた喜びを味わうことができたからだと考えられる。これらのことから、英語で自分たちの思いを伝え合う発表場面を設定したことは話す態度をはぐくむのに効果的であったと言える。

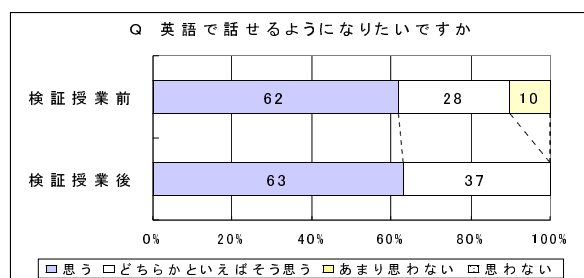


図7 英語で話すことについての意識の変容

表3 検証授業後の児童の感想

- ランチメニューを作って発表するのが楽しかった。
- 楽しくできてよかったし、もっと英語が話せるようになってみたいと思った。
- ゲームが楽しかった。英語が話せるようになった。
- 食べ物を英語で話し合うのが楽しかった。またやりたい。

表4 ランチメニュー発表に関する児童の感想

- 少し英語が分かった。
- 難しかったけど楽しかった英語の大切さが分かった。
- 緊張したけど、英語が分かったから楽しかった。
- 久しぶりにみんなの前で発表して楽しかった。

## VI まとめと今後の課題

本研究では、「英語ノート」の単元『ランチメニューを作ろう』において、栄養のバランスを考えたランチメニューを作成し、発表する過程で児童が話す場の工夫を図ることによって、英語で伝え合えた喜びや楽しさを体験し、積極的に話す態度がはぐくまれるであろう。」との仮説を立て、研究を進めてきた。以下にその成果と課題をまとめる。

### 1 成果

- (1) ペアワークやグループワークなどの授業形態の工夫、児童に役割を持たせた場の工夫、安心して発話できる場の工夫をしたこと等により、児童が英語を使えた達成感や喜びを味わい、積極的に英語を話す態度をはぐくむことができたと考ええる。
- (2) 既習の家庭科の栄養素と英語ノート「ランチメニューを作ろう」を関連させ、英語ノートを発展させた思考し表現する活動にすることで、より児童の興味・関心を高めることができたと考ええる。
- (3) 料理の写真や栄養素の働きの分類表など英語での内容理解を図るために視覚的教材を多く用いることで、児童は英語が分かる達成感を味わい、活動意欲が高まったと考ええる。

### 2 課題

- (1) 表現活動をするための計画時間内で行えるような語彙や表現の練習時間の確保と指導の工夫・改善が必要である。
- (2) 学校の実態に応じた英語ノートの活用方法の工夫と英語ノートの絵カードやICTなどの教材の効果的な活用方法の工夫が必要である。

## <主な参考文献>

- 安彦忠彦監修 2008 『学習指導要領の解説と展開』 教育出版  
 吉田研作編 2008 「教職研修総合特集『新学習指導要領』実践の手引き4」 教育開発研究所 170-173頁  
 長瀬壮一 2001 『小学校英会話の授業を成功させるポイント』 明治図書

